

異文化理解～世界と教室をつないで～

はじめに

異なる文化を理解し、尊重し合うことは、グローバル化が進む現代において、他者との円滑なコミュニケーションや共生を可能にするために不可欠である。学校教育においても、子どもたちが世界の多様な文化に触れ、他国の人々と交流することを通じて、共感力や柔軟な思考を育てることが求められている。しかし、私が通う小学校では、海外とのつながりが希薄であり、子どもたちにとって異文化に触れる機会は限られている。このような背景を受け、実際に海外の子どもたちと交流し異文化理解を深めることを目的として、教材作りに至った。

この教材の使い方

この教材は、小学校中学年を対象としている。中学年は、自分の身の回りの世界から少しずつ外へと興味や関心が広がる時期である。この段階では、「他者理解」「異なる文化への興味関心」を育てることが重要だとされる。この時期の子どもたちの異文化に対する興味関心を育てていくために、映像や写真、歌などのクイズやオンライン交流を楽しみながら行い、異文化理解を深めて欲しいと思う。そして、子どもたちの「楽しい!」「もっと知りたい!」というポジティブな気持ちを育むことを狙いとした授業にしたい。

全体のねらい

子どもたちがラオスの文化や生活について学び、異文化理解を深める。ラオスという国について知るだけでなく、自分たちの文化との違いを実感し、他国の人々との交流を楽しみながら、他国に住む人々を尊重する心を育むことを目指した。

アクティビティ1 「ラオスについて知ろうクイズ」

●概要

このアクティビティは、ラオスの衣食住や文化について楽しく学びながら、異文化理解を深めることを目的としている。日本との違いや共通点に気づき、多文化への関心を育てる。また、クイズ形式にすることで、子どもたちが主体的に学べるようにしている。

●ねらい

日本とラオスの文化の共通点・相違点を考えることを通して、海外の人々や文化に親しみをもつ。

●主な対象

小学1～6年生

●用意するもの

- ・パワーポイント（ラオスについてのクイズ、日本とラオスの違いクイズ）（P22～24）
- ・ラオスと日本の国旗：それぞれグループ数分

●所要時間

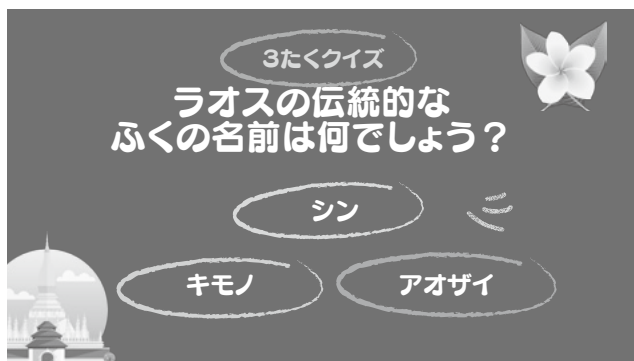
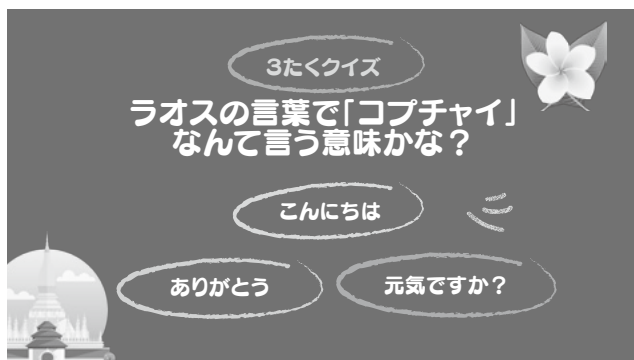
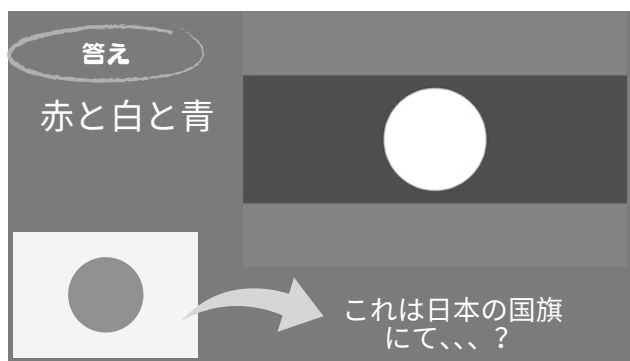
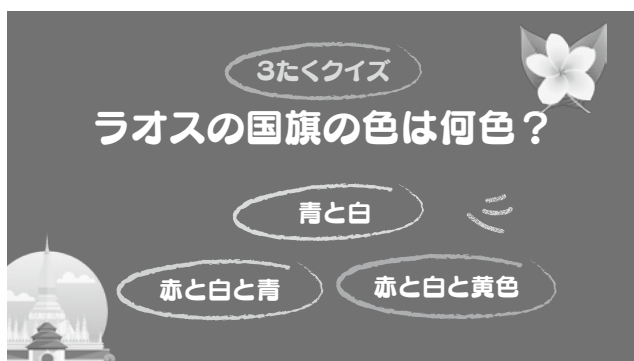
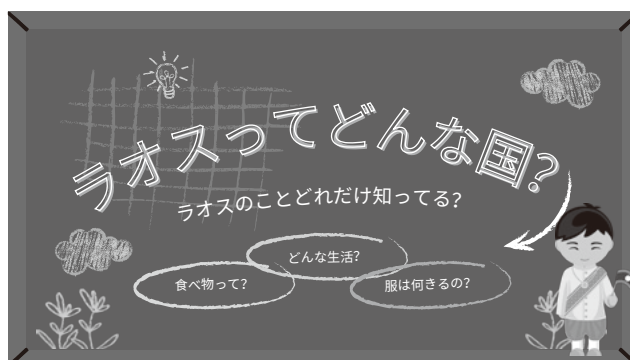
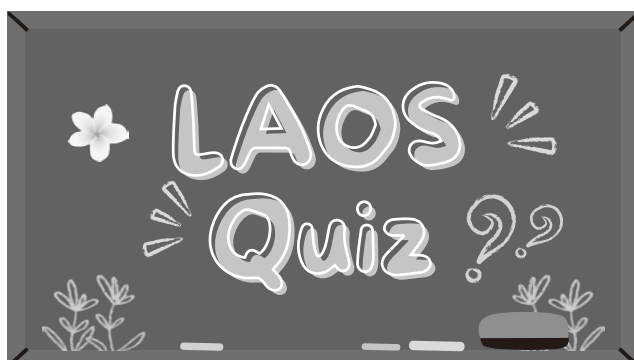
30～45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 海外について知っていることを共有し、ラオスという国の概要を知る。 「ラオスって国を知っていますか？」 「ラオスの場所は日本からみてどこに位置してるかな？」 2. 本時のめあてを確認する。 「ラオスについて知ろう。」 3. パワーポイント（P22～）を使って3択クイズを提示する。 「ラオスの衣食住についてのクイズをします。日本と同じかな？」 4. グループ毎に3つの選択肢のうちどれを選ぶかについて話し合い、グループ毎に答えを発表する。 5. 「これは日本かな、ラオスかなーはたあげクイズ」のスライドを提示する。 「今から写真を見せます。ラオスの写真だと思ったらラオスの旗を、日本の写真だと思ったら、日本の旗をあげてください。」	予め4人程度のグループに分けておく。 世界地図を掲示し、ラオスの位置を確認することで、興味関心を促す。 「3択クイズ」「写真クイズ」などのクイズを行う。学年の実態、所要時間に合わせてこれらのクイズから適宜問題を選んでよい。 クイズの選択肢に番号を振っておき、児童が指で1、2、3と示すことで、自分たちの答えを表現することもできる。 グループにラオスと日本の国旗を1つずつ配り、相談しながら回答することを伝える。 写真を見て、気付いたことを交流させる。
ふり返し クイズを通して、ラオスについてわかったこと、日本とのちがいや同じところなどを、ロイロノートを使用し、ふりかえる。	次時ではオンライン交流でラオスの小学校とつながることを告知し、聞いてみたいことや疑問に思ったことも、ふり返しに記入させ、次時への見通しを持たせる。

パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。



3たぐクイズ

ラオスの市場では、
どんなものが買えるかな？

車

電化製品

肉や野菜




答え

肉や野菜




3たぐクイズ

ラオスのいなかでは、どんな家に
住んでいることが多いでしょう？

木でできた
高床式の家

石でできた
大きな家

テント




答え

木でできた高床式



ねる部屋はこんな感じ！
これは、かやというよ！

キッチン
外にあったよ！




3たぐクイズ

写真のキーホルダーは
何でできているかな？

ばくだんのはへん

ゴミ

動物のほね




答え

ばくだんのはへん
(ふはつだんのはへん)

ラオスでは
昔、大きなせんそうがあって、
2億6000万こもばくだんが
おとされました。今でも、80
00万こ、ばくはつしてなくて、
地面にうまったままです。




これは日本かな？
ラオスかな？

はたあげクイズ

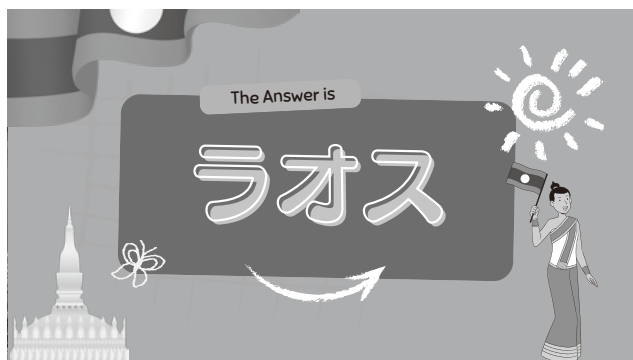





The Answer is

ラオス

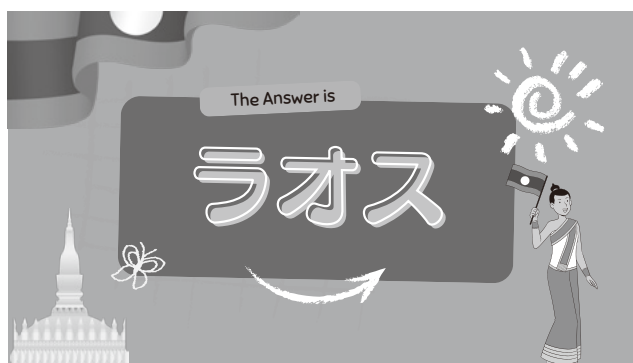
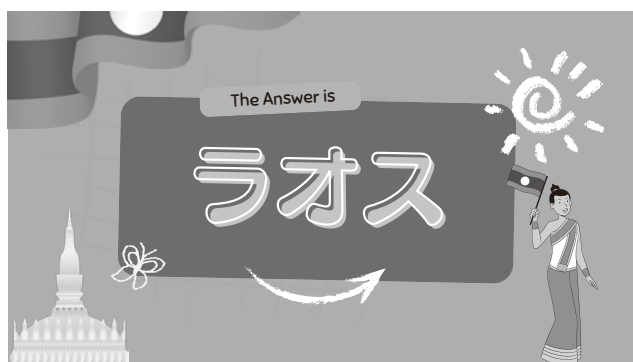


日本の会社(トヨタやホンダ)が
ラオスにはたくさんあるよ！
道路も日本の車がたくさん走っ
てました！



日本のJICAという団体はラオス
の人々のために、教科書を作った
り、子どもたちが学校に行けるよ
う支援したりしてるよ！



アクティビティ2 「画面の向こうに広がる異文化（ラオスとのオンライン交流）」

●概要

本授業では、ラオスの小学生とのオンライン交流を通して、子どもたちが異文化に触れ、相互理解を深めることを目的とした。事前学習として、ラオスの生活や文化についてのクイズを行い、食べ物や学校生活、住まいなどについて学んでいる。交流を通して、異文化に触れる楽しさや、言葉や文化が違って心を通わせることができるという貴重な経験を得ることができる。JICA主催の「国際協力出前講座」といった、様々な国とつながることができるプログラムがあるので、ぜひ活用してほしい。

●ねらい

ラオスの子どもたちと直接交流することで、言葉や文化、生活習慣の違いを学びながら、互いの文化を尊重する態度を育てる。

●主な対象

小学1～6年生

●用意するもの

- ・タブレット（使用アプリ：Google Meet）
- ・折り紙

●所要時間

30～45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 授業の目的を共有する。また、事前学習（アクティビティ1）で学んだラオスの生活や文化を簡単にふり返る。	相手国の挨拶や礼儀に関する基本的なルールを事前に学び、失礼がないように声がけをしておく。
2. オンラインを接続し、ラオスの子どもたちとの交流を開始する。	
3. 自己紹介を行う。最初に日本側の児童が自己紹介をし、名前や好きなものを簡単な言葉で伝える。ラオスの児童からも自己紹介をしてもらい、お互いの名前を覚える時間を作る。	

4. 日本の文化紹介を行う。 ①リコーダー、歌の披露 ②折り紙（紙飛行機）の紹介 5. ラオスの友だちからも文化紹介をしてもらう。 （歌の披露など）	リコーダーを演奏し、「さくら」を歌う。 折り紙を作る様子を実際に見せ、作り方を簡単に説明する。 ※今回はラオスの歌「ホックハックサム」の歌唱があった。
ふり回り ロイロノートに感想を書き、日本のクラス内で共有（交流）する。	

●解 説

- ・事前準備として、インターネットの接続やカメラ、マイクの動作確認を行い、スムーズな通信ができる環境を整えておく。
- ・文化の違いに驚いたり、否定的な発言をしないよう事前に話しておき、お互いの文化を尊重する態度の大切さについて話しておく。また、相手国の挨拶や礼儀に関する基本的なルールを事前に学び、失礼がないようにする必要がある。

※今回、子どもたちが質問を考えるために、事前指導として、交流するラオスの小学生の写真を何枚か見せた。



教室の様子（板書に注目させ、どんな言葉がかかれてあるのか予想させたり、日本の教室とのちがいや着ている服に注目させたりした）



売店の様子（おかしを買いにきている。ラオスと日本のちがいを写真を通して視覚的に考えさせた）

●資 料

①オンライン交流の前に、以下の情報を伝えた。

- 相手国のあいさつ…親しみをもってもらうために、ラオスのあいさつや感謝の気持ちをあらわす言葉を全体で確認した。
- 礼儀…日本では、あいさつするときにおじぎをするが、ラオスでは、手を合わせる挨拶をすることを伝えた。
- オンラインでの基本的なルール
 - ・挨拶するときのポイント…相手の目を見て、はっきりと「こんにちは」と言おう！
 - ・ラオス語で「サバイディー」と言うと喜ばれるよ！
 - ・話すときの注意点。順番を守る。相手が話しているときは静かに聞こう。
 - ・ゆっくり、はっきり話そう。

②自己紹介や質問内容を予め考えておく。今回児童が考えた質問は以下のようなものがあった。

- ・ランドセルはある？
- ・どんな遊びがある？
- ・お昼ごはんは学校で食べる？
- ・学校の広さは？
- ・休み時間は何をするの？
- ・授業は何時間あるの？
- ・下校時間は何時？
- ・ラオスの売店には何があるの？
- ・ラオスの学校は何階建て？
- ・ラオスの学校にも給食はあるの？
- ・ラオスの学校に授業はいくつある？

実践事例報告

プログラム作成・実践者

上杉 卓

学 校 名

高知市立泉野小学校

担当教科

全教科

実践教科

外国語、総合的な学習の時間

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：「ラオスと日本をつなぐ ～オンライン交流で広がる世界～」

(2) 単元のねらい

- ・教師海外研修で学んだラオスの文化や子どもたちの生活について知る。
- ・異文化交流を通じて、相手を尊重する心や自分の思いを伝える力を育てる。
- ・日本とラオスの文化の違いや共通点を発見し、広い視野を持つ。

(3) 概 要

交流相手：ラオス ノーンメンダーの小学校 4年生

交流方法：オンラインビデオ通話（Google Meet）

活動内容：1. 自己紹介：お互いに名前や好きなことを伝え合う。

2. 日本の文化紹介：リコーダー演奏や折り紙で日本文化の紹介。

3. ラオスの文化紹介：ラオスの歌を聞く。

4. 質疑応答：お互いに質問し合い、交流を深める。

(4) 指導上の留意点

- ・子どもたちが緊張せずに自分の思いを伝えられるようにサポートする。
- ・ラオスの文化や生活について、事前学習を行い、興味・関心を高める。
- ・言葉が通じにくい場面では、ジェスチャーや絵などを活用して伝える工夫をする。

(5) 児童の感想や学び・気づき

- ・最初は緊張したけど、うまく自己紹介できて嬉しくなりました。日本の小学校もいいけど、ラオスの小学校もいいなと思いました。
- ・大きな声でラオスの友だちに伝わるように自己紹介や質問できたので良かったです。ランドセルではなく、リュックで学校に行くことを知って、日本の小学校とちがうところもあって驚きました。
- ・折り紙をつくる時、うまく伝わるか不安だったけど、ジェスチャーをしたり折り方をよく見せたりしたら、ラオスの友だちも上手に紙飛行機をつくっていたので、嬉しかったです。
- ・ラオスの友だちが、日本語であいさつしてくれたことが嬉しかったし、ラオス語であいさつしたときに相手も反応してくれたことがとても嬉しかったです。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

今回のオンライン交流授業では、ラオスの小学生とつながることで、子どもたちが異文化に触れ、互いの違いを認め合いながら理解を深めることを目指した。初めてのオンライン交流ということもあり、授業の最初は子どもたちも緊張した表情で画面を見つめていた。しかし、自己紹介が始まると少しずつ笑顔が見られるようになり、「自分の名前を英語で伝える」「好きな食べ物を紹介する」といった活動を通して、緊張がほぐれていったように思う。

次に行った日本の文化紹介では、子どもたちがリコーダーを演奏したり、折り紙を披露した。特に折り紙の時間で紙飛行機を作って飛ばした場面では、ラオスの子どもたちが画面越しに興味津々で見つめ、驚いた表情を見せる姿が印象的だった。ラオスの子どもたちが歌を披露してくれた際には、日本の子どもたちが真剣に耳を傾け、文化の違いを楽しんでいる様子が見られた。質疑応答では、「ラオスではどんな遊びが人気なの?」「学校は何時に始まるの?」など、子どもたちから積極的な質問が飛び出し、興味や関心が自然に引き出されていた。最初は恥ずかしがっていた子どもも、交流の終わりには「もっと話したい!」「また会いたい!」と目を輝かせていた。

この授業を通じて、子どもたちは異文化を知る楽しさやコミュニケーションの大切さを学んだように感じている。また、自分たちが日常的に過ごしている環境や文化が、他国では当たり前ではないことに気づき、視野が広がるきっかけにもなったと感じている。今後もこのような交流の機会を大切にし、子どもたちが世界に目を向け、異文化理解や他者を尊重する心を育てられるような学びを提供していきたい。

